創造的な人生の持ち時間は 10 年だ

第 13 期 OB　川村 澄明

カプローニ伯爵（左）と主人公の堀越二郎（右）

掲題の一節は，スタジオジブリは宮崎駿監督の作品,『風立ちぬ』に出てくるセリフです。この映画が製作されたのが 2013 年なので，すでに 6 年以上前の作品になります。それでも，当時，映画館で胸打たれてから今なお，この一節は，私の脳裏から片時も離れることがありません。

多くの方にとって，すでに知った話かもしれませんが，念のため，朧げな記憶を引っ張り出し，この映画の概要を，一部切り取って，書いておきたいと思います。時は大正，飛行機に強い興味を持つ少年，堀越二郎（主人公）は，夢でイタリアの飛行機の設計家，カプローニ伯爵と出会ったことをきっかけに，自分も飛行機の設計家となることを目指します。やがて少年は，大学を出てエリート技師となりますが，彼が生きた時代は，第二次世界大戦で日本が破滅へと向かう混沌の中にありました。そんな中，カプローニ伯爵が再び夢に現れ，彼の大志を後押しすべく，彼に語り掛けた言葉が掲題の一節です。その後，苦しみながらも彼は，史実通りに，かの有名な零戦の設計を成し遂げましたが，零戦は結局，弱点を見抜かれ，そのほとんどは墜落されてしまうのでした――

この映画を見て，主人公の堀越二郎が，第二次世界大戦の真っただ中という劣悪な環境の中で，本意ではない戦闘機の設計を任されながら，限られた自分の持ち時間の限り，力を全うする姿勢に私は感服しました。しっかりと自分の大志を見据え，環境に振り回されずに努力を続けることが，どれほど高尚か，と。

小野ゼミを卒業してはや 2 年，日々降りかかる雑務にかまけ，初心を忘れていないだろうか，私の創造的な人生はすでに始まっていると見做して良いのだろうか，上司のやり方に迎合することに慣れ，自らの創造性の芽を枯らしていないだろうか，10 年という持ち時間が終わってしまった時に，後悔のないような生き方を出来ているのだろうか，私は，未だに自問自答が尽きない日々を過ごしているような状態です。

最後は，同映画の一節を引用して，締めくくらせていただきます。

カプローニ伯爵　：　「まだ風は吹いているか，日本の少年よ。」

堀越二郎　　：　「はい，大風が吹いています。」

カプローニ伯爵　：　「では，生きねばならん！」